

収入向上・女性自立

アムグオ村のナバルタビ織と縫製研修事業2年目

— 原料のアバカの植え付けと工業用ミシン購入 —



レイクセブ町で購入のアバカ苗を、緩斜面の畑に植えました。



今年度は白い工業用ミシンを購入。やや厚地のナバルタビ織の縫製加工用です。

左の黒いミシンは初年度購入。民族衣装の刺繍ブラウスやマロンの縫製に使っています。

(WE21 ジャパンみどり助成事業)



ナバルタビ織を前見ごろに使用したシャツ。モデルはアムグオの伝統技能継承組織代表のジェロさんです。

COWHED の活動

— FACEBOOK 写真報告より —



7月実施の貿易産業省/DTI 助成による縫製研修

レイクセブを訪れる観光客やマニラの見本市をターゲットにした洗練されたデザインのポシェットやトートバッグを制作しました。



チボリの伝統技能を次世代に

ハイスクール生対象の刺繍研修や、小学生にティナラク織を知ってもらうイベントも7月に実施しました。

チボリ文化継承の殿堂的存在になった COWHED に対する次年度の支援

3年前の90%自立宣言後も、翌年には売り上げ減少など、その収入には波があります。しかし、チボリ民族文化継承の拠点として、レイクセブ町をはじめとして、関係政府機関の評価は高く、左上写真のように、縫製研修に対する貿易産業省/DTIの助成も続いています。また、前95号で紹介のように、ミスユニバース・フィリピン代表もCOWHEDを訪問先に選び、ビーズ細工体験をするなど、フィリピンを代表する伝統文化拠点として評価されています。

一方で、組合員一人一人については、一部の熟練織手や縫製技能者を除けば収入は限られていて、子どもの教育費、特にカレッジ学費負担は楽ではありません。COWHED がまだ必要としているカレッジ奨学金支給は、次年度も継続したいと思っています。



奨学金でSCMSIカレッジ地域開発科3年に復学したと紹介(94号)のチョピンレット。遅れていた写真が届きました。

COWHED をモデルとしたビラーン民族女性組織化

私たちが本格的にCOWHEDに関わるようになったのは、助成金を受けての研修支援を始めた2000年ですが、その時点でCOWHEDは、政府登録多目的組合として5年ほどの歴史がありました。創設時メンバー61名の多くは、SCM医療責任者だったSr.セシリアによる1992-4年に実施された収入向上と健康に関する研修受講生であったことなどから、設立時における組合理念の共有は容易であったと考えられます。

一方で、アムグオの伝統技能継承の組織は、ナバルタビ織名手を祖母に持ち、大学では地域開発を専攻して、住民組織化のノウハウを持っているジェロさんにより設立されました。COWHEDとはアプローチは異なるものの政府機関登録も終えていて今後が期待できます。しかし、ボルール村では、数名ナバルタビ織技能者がいて、組織化を目指し、COWHED見学(会報87号)をしたものの、リーダーのミエルナが家庭の事情で、組織化に専念できない状態です。